

# 人生ハンド仏句

第121号

H. 24. 4. 1

(毎月1日発行)

日蓮聖人の生涯 ②

住職 谷川 寛俊

南無妙法蓮華經



建長五年(一一五三)四月二十八日、清澄寺山頂の旭ヶ森から暗黒を破つて昇りくる太陽に向かって、日蓮聖人は「南無妙法蓮華經」というお題目を初めて唱えられました。その日から蓮長を改め「日蓮」と名乗られました。

「日」は暗闇から太陽が、現われ世の中を明るく輝すが如く、「蓮」は泥沼にありながら美しい華を咲かせる蓮華のような存在であることを現わしているのです。

やがて日蓮聖人は、旭ヶ森を下られその日の正午から清澄寺の持仏堂の南面に集まった僧侶や信徒達の前で、自分の勉学の成果を説き始めました。「いま、比叡山延暦寺は、開祖伝教大師の心を失っている。そればかりか、この世を見つめないで、はるか西方十万億土にあるという極楽浄土への生まれ変わりを祈って、南無阿弥陀仏の念仏を称える浄土の教

「人生ハンド仏句」

と打ち込んで頂けば、ホームページにつながります。

編集・発行  
玉蓮山 真成 寺  
編集部 谷川久仁子  
TEL・FAX 0765-22-2268

えが、比叡山の伝統に取って代つてしまっている。そして、その念仏の教えは今、鎌倉をはじめとして東国にも波及している。伝教大師の意志を踏みにじるような教えの波及を許すことは出来ない。今の私達を救う教えはただ一つ、釈尊が法華經に説き示された南無妙法蓮華經の教えによる以外にないのだ……」

このような説法が進むにつれ、一座は異様な空気に包まれてしまいました。その時、地頭の東条影信が突然、「やめよ！」と大声を發したのです。影信は、念仏の教えに帰依していたため、聖人の念仏批判に腹を立てたのです。刀を抜かんばかりの影信を多勢の僧侶や大衆らがなんとか押えている間に、聖人は清澄寺を下りて逃れることが出来ました。この頃から浄土念仏信仰が全国津々浦々に広まり、権力者の發言は、かなり重いものがありました。もともと念仏を

はじめ他宗の批判を口にすれば、法難がたびたび起こることは、經文(法華經)に予言されているのです。日蓮聖人はこの時からすでにさまざまな弾圧を受けることを覚悟され、法難を恐れて正しい事を言わなければ、衆生を救うことが出来ない、その為にあえて法難に立ち向かう道を選ばれたのでした。

やがて鎌倉にいられた日蓮聖人は、松葉ヶ谷に草庵を結び法華經の教えを弘めていかれます。

次号へ続く

ことばは 心の使

# ご案内

さんじゅうばん

三十番

じんさま

神様

かいげん

開眼

にゆうこんたいさい

入魂大祭

## ◎日時

・四月二十二日(日)

十三時半〜

以前より告知しております

た『三十番神様』いよいよ

真成寺に三十体の神々様が

安置されます。この大祭は、

一生に一度のもの。佛師の

馬淵憲峰氏来寺。富山県内

の有志祈祷師来寺。御縁の

ある皆様、四月二十二日は、

真成寺の大祭へお越し頂き、

歴史の証人になりましょう。

## ◎水子供養会

・毎月十三日 午後一時半より

どなたでもお気軽にお参り下さい！

## ◎唱題行脚



※今月は立教開宗会りつきようかいしゅうえの為、日程の変更をいたします。

お間違えのないように！

二十八日 ↓↓ 二十七日(金)

・午後一時半より

先月二十八日の天気予報は、「九十%雨、又、雷や突風にご注意下さい！」という最悪の予報！

朝から今日の行脚はずぶ濡れ、と覚悟をしておりましたが、なんと行脚中は雨が降るどころか、歩いていたら汗ばむ程の良いお天気になり天気予報は、大はずれ！不思議なことに行脚の日は、こういう事が良くありますよね！

皆さまの功德でしょうか？！感謝感謝で回って参りました。

先月の参加者(敬称略・順不同)

谷川寛敬・土居可久子・伊藤宗治・

高円富美子・

阿閉江里子・谷川久仁子

